

令和6年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 思永 中学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、3年生を対象として、令和6年4月18日（木）に、「教科（国語、数学）に関する調査」、文部科学省が指定した日（4月10日から4月30日の間）に「生徒質問調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査（国語、数学）

教科に関する調査（国語、数学）	
①	身に付けておかねば後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
②	知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

- (2) 生徒質問調査

生徒質問調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

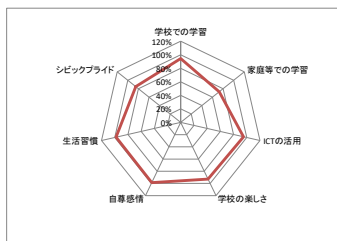
- (1) 全国・本市の学力調査（国語、数学）の結果

本年度の結果	国語		数学	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	8.5	57	7.8	49
全国	8.7	58	8.4	53

- (2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	思考力・判断力・表現力等に関して「話すこと・聞くこと」および「書くこと」において全国平均を上回っている。また、選択式問題は短文式問題および記述式問題における正答率が全国平均を上回っている。一方、情報の取り扱いに関する問題や「読むこと」の問題における正答率は全国平均を下回っている。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	目的や意図に応じて集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすることができるかどうかをみる問題	
	努力が必要な問題	目的に応じて必要な情報に着目して要約することができるかどうかをみる問題	
数学	全体的な傾向や特徴など	「データの活用」の領域および「知識・技能」の観点が全国平均を上回っている。また、短文式における正答率が全国平均を上回っている。一方、「図形」の領域、および「思考・判断・表現」の観点や記述式の正答率は全国平均を下回っている。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	与えられたデータから最頻値を求めることができるかどうかをみる問題	
	努力が必要な問題	筋道を立てて考え、証明することができるかどうかをみる問題	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問調査結果の概要



質問調査の結果分析
○ すべての項目において全国比を下回っている。
○ 「家庭等での学習」について、1時間以上学習すると回答した生徒の割合が特に低かった。
○ 「自尊感情」について、自分には良いところがあると回答した生徒の割合が高かった。
○ 「シビックプライド」について、地域や社会をよくするために何かしてみたいと回答した生徒の割合が低かった。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

- ① 教科に関する取組

【国語】力が付いてきた「話すこと・聞くこと」「書くこと」に関する取り組みを継続しつつ、読書活動にも力を入れ、読む力及び情報活用能力を育む土台を固める。
【数学】授業中、補充学習等で知識・技能のさらなる定着を目指しつつ、それを活用した思考・判断・表現を問う力を高めていく。

- ② 家庭生活習慣等に関する取組

- 「家庭等での学習」を充実させるため、個に応じた課題やICTを活用した課題を定期的に行い、家庭等での学習を定着させる。
- 「シビックプライド」については道徳科の授業や特別活動等でシビックプライドを醸成する授業や取組を一層充実させる。